

治水

発行 全国治水期成同盟会連合会

東京都千代田区麹町4丁目8番26号 ロイクラトン麹町
電 話 03(3222)6663 FAX 03(3222)6664
ホームページ <https://zensuiren.org/>
お問い合わせ info@zensuiren.org
編集・発行 椿本和幸



「最上川舟下り」山形県戸沢村観光物産協会提供

● 目 次

会長年頭の挨拶	2
国土交通省水管理・国土保全局長 五道仁実 新年のご挨拶	3
大分川ダム完成式	4

年 頭 の 挨拶



令和2年の年頭に当たり、謹んでご挨拶申し上げます。

会員の皆様には、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げますとともに日頃の当連合会に対する多大なご支援、ご協力に衷心より御礼申し上げます。本年の皆様のご健勝にてご活躍をお祈り申し上げます。

さて、皆様ご承知のとおり、昨年は、全国各地において豪雨等により水害並びに土砂災害が発生し、災害への対応が強く求められる年となりました。中でも「台風第19号」においては、東日本を中心に記録的な暴風雨となり、堤防の溢水・決壊等により広範囲に渡り浸水し、90名を超える方々が亡くられるなど甚大な被害が発生しました。

改めて、治水事業の重要性を痛感させられ「事前

防災対策」予算の確保が必須であることを再認識いたしました。

今後とも、災害の外力となる降水量は、気候変動に伴い、さらに巨大化、激甚化、頻発化していきます。

また、切迫する大規模地震による津波の発生並びに老朽化が進む河川管理施設の維持・更新並びにダム建設及び再生事業の推進、魅力ある水辺空間や良好な自然環境を中心とした賑わいの創出、環境振興への取組の推進も必要となっております。

「大規模な水害は全国のどの河川でも起こりうるもの」との危機管理意識に立って、災害を未然に防止し、国民の生命と財産を守り、安全・安心かつ豊かで活力のある国土を構築するため、平成2年度は、「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」の最終年度となっておりますが、根幹的な治水施設の整備を計画的に推進するための治水事業費の増額を会員の皆様をはじめ、治水事業を担当する皆様のご支援をいただき、全国治水期成同盟会連合会として取組んでいく所存でございますので、さらなる関係各位のご支援、ご協力をお願い申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

全国治水期成同盟会連合会
会長 脇 雅 史

新年のご挨拶



国土交通省
水管理・国土保全局長
五道 仁実

新しい年を迎えるに当たり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

皆様には、水管理・国土保全局の所管行政の推進にご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年も、全国各地で豪雨等による水害や土砂災害が発生しました。特に、台風第19号においては全国140箇所ですべて堤防が決壊するなど、全国各地で河川が氾濫し、広範囲で浸水被害がありました。国土交通省では、全国の地方整備局等からTEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）を広域派遣し、被災地において自治体所管公共土木施設の、被災状況調査、対策工法の検討等を実施し、被害規模の迅速な把握に貢献しています。また、排水ポンプ車、衛星通信車など災害対策機械を全国から被災地に投入し、迅速な排水活動などにより自衛隊、警察、消防の捜索、救助活動の支援も実施しています。全国の排水ポンプ車約200台体制による緊急排水に全力で取り組み、10月30日までに全箇所ですべて浸水を概ね解消するなど被災地の早期復旧に貢献しています。また、茨城県、宮城県、福島県、長野県から要請を受け、県管理区間で堤防が決壊した箇所等41箇所について、権限代行により県に代わって、国が復旧工事を実施するなど、応急復旧工事等を進めています。

さらに、気候変動による降雨量の増加等への対応が必要です。「気候変動を踏まえた治水計画に係る技術検討会」により令和元年10月18日に公表された「気候変動を踏まえた治水対策のあり方 提言」では、産業革命以前と比べて世界の平均地上気温を2℃上昇以下に抑えることを前提としたシナリオの場合、一級水系の治水計画で対象とする規模の降雨は、21世紀末には20世紀末と比べて、全国平均で、降雨量が1.1倍、洪水発生頻度が2倍になるとの試算結果が示されております。

気候変動に伴う降雨量の増加や海面水位の上昇、人口減少や超高齢化社会の到来、社会構造の変化等を踏まえ、低い水準にある治水安全度の速やかな向上や、予測される将来の降雨量等を反映した治水対策への転換に加えて、災害リスクを勘案したコンパクトなまちづくり等の取組とも連携し、流域全体で備える水災害対策について、社会資本整備審議会に諮問し、それを受けて設置された「気候変動を踏まえた水災害対策検討小委員会」において検討しているところです。今後、小委員会での議論を踏まえ、国・県・市のみならず企業・住民の方々などと連携し、ハード・ソフト一体となった水災害対策を進めてまいります。

被災地の早期復旧・復興を進めるとともに、国民の生命と財産を守るため、気候変動等を踏まえ、防災・減災対策、国土強靱化の取り組みを進めてまいります。皆様の引き続きのご支援とご協力を心からお願い申し上げます。

大分川ダム完成式

池浦 光文 国土交通省 九州地方整備局 大分川ダム工事事務所 技術副所長

1. はじめに

大分川ダムは、大分県大分市を流れる一級河川・大分川水系七瀬川本川合流点より上流約21kmに位置し、洪水調節、流水の正常な機能の維持、水道用水の確保を目的とした多目的ダムです。(図-1)

大分川流域では昭和28年6月の梅雨前線豪雨や昭和32年9月の台風による洪水被害をはじめ、近年でも、平成5年9月、平成16年10月の洪水により、家屋等の浸水被害が発生しています。一方、大分市の水需要は、新規開発団地の建設や、新副都心開発等により逼迫しており、昭和48年渇水での給水制限をはじめ、近年でも平成17年、19年、21年と渇水による取水制限等の被害が生じています。

このような中、大分川ダムは昭和53年4月に実施計画調査に着手、昭和62年4月に建設事業に着手し、令和元年11月にダム本体関連工事が完成しました。

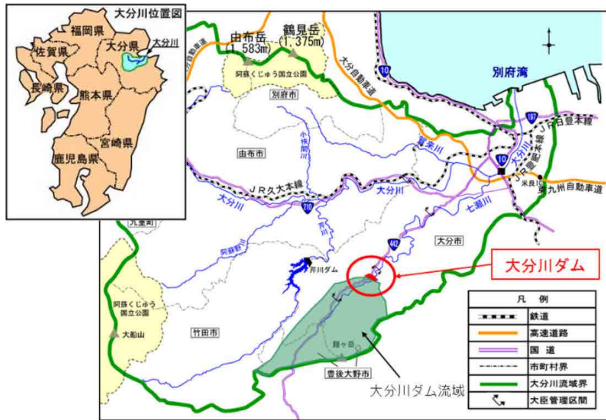


図-1 位置図

2. 大分川ダム建設事業の概要

大分川ダムは、堤体積約3,900千^m、総貯水容量24,000千^m、ダム高約92mで九州地方整備局初の本格的な中央コア型ロックフィルダムです。(図-2、写真-1)

平成26年2月に本体建設工事起工式、平成28年2月には定礎式を執り行い、平成29年5月には本体盛立を完了し、同年11月には洪水吐部のコンクリート打設を完了しました。平成30年2月20日より試験湛水を開始し、現在、付替道路等の整備を進めており、令和元年度末に事業完了予定です。

位置	左岸：大分市大字下原地先 / 右岸：大分市大字下原地先		
河川名	大分川水系七瀬川	堤頂長 400m*	利水容量 8,100千 ^m
ダムの形式	ロックフィルダム	堤体積 3,870千 ^m	堆砂容量 1,600千 ^m
集水面積	38.0km ²	総貯水容量 24,000千 ^m	ダム天端高 EL 201.6m
湛水面積	1.0km ²	有効貯水容量 22,400千 ^m	サーチャージ水位 EL 195.8m
堤高	91.6m	洪水調節容量 14,300千 ^m	常時湛水位 EL 176.4m

*ダム幅（洪水吐を含む）：約500m

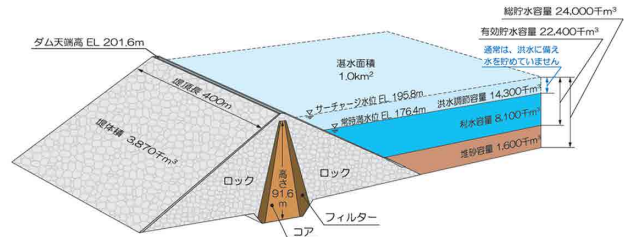


図-2 ダムの諸元と構造



写真-1 ダム本体完成写真

3. 大分川ダム完成式の開催

令和元年11月24日、大分川ダム管理庁舎前にて、九州地方整備局主催による完成式を執り行いました。式典には地権者の皆様をはじめとする地元関係者、国会議員、大分県知事、大分市長、関係行政機関、国土交通省、工事関係者など約320名の参加を頂きました。

最初に国土交通省水管理・国土保全局長による式辞(写真-2)、引き続き大分県知事、国会議員、大分市長による祝辞(写真-3)を頂き、大分川ダム建設補償対策委員会会長、副会長による故郷献花(写真-4)、記念碑の披露(写真-5)、野津原小学校及び岡倉こども神楽の皆さんと一緒にくす玉開披(写真-6)を行い、最後に旧野津原町最後の町長による万歳三唱により、大分川ダムの完成を祝いました。

4. おわりに

大分川ダムは、治水・利水の面から大分川流域の安全と安心の確保を担っていきます。

また、地元の要望により事業完了後、ダムの名称は「ななせダム」に変更され、ダム湖名称は「のつはる湖」と命名され、地域に愛されるダムとして完成しました。

今後は、ダム湖畔にオープンした「道の駅のつはる」や七瀬川沿線の肥後街道、近隣の湯布院温泉、

別府温泉など周辺観光施設とダムが一体となって、今後更なる地域の活性化に資するよう大きな期待が寄せられています。

最後になりますが、昭和53年の調査開始からダム完成に至るまでの永きに渡り、用地提供等の事業への多大なご協力を頂いた地元関係者の皆様をはじめ、調査、設計、工事等に携わっていただいた皆様に心より感謝申し上げます。



写真-2 水管理・国土保全局長式辞



写真-3 大分県知事祝辞・大分市長祝辞



写真-4 故郷献花



写真-5 記念碑、ダム名碑



写真-6 くす玉開披